

伊田商店街の
カン ヒ ザクラ
見事な寒緋桜

伊田商店街の田川伊田駅側出入口付近にある憩いの広場「さのよい公園」。2月下旬から3月上旬には、寒緋桜が満開になり、公園を桜色に染めます。商店街に入らないとお目にかかれない穴場スポット。お気に入りの一枚が撮影できるインスタ映えスポットとしてもオススメです。商店街で食べ物や飲み物を買って、桜を楽しみながらくつろいでみませんか。



丸山公園

わかまち桜
CLOSE UP

春の陽気に誘われて、まちを歩いてみると、庭先や学校、公園など行く先々で、桜に出会います。見上げるほど立派に育った桜の木は、10年、20年と歳月を重ねながら、人や地域とともに成長してきました。ここでは、本市を代表する桜の名所「丸山公園」と「大浦池」に注目。寄り添ってきた人たちの思いを紹介していきます。

変わるまち
変わらぬ桜

「田川の桜といえば、今も昔も変わらず、丸山公園です」と太鼓判を押すのは、丸山町区の烏羽勝利区長です。ソメイヨシノ約千本の群生は圧巻で、一歩入ると、視界いっぱい広がる桜、桜、桜。枝が織りなす桜のトンネルの下で、たくさんの方が花見を楽しんでいます。

ます。烏羽さんは、約40年前に、妻の美佐子さんの故郷であるこの地に移り住み、夫婦で桜を見守ってきました。

当時は、住民も観光客も多く、毎年花まつりの時期は花見客で大盛況。公園周りの道には出店が立ち並び、サーカスやゴーカートなどの催しには長蛇の列。桜に囲まれた公園内には、クジャクやニワトリ、シカ、サルなどが飼われて



いて、子どもたちの憩いの場になってきたそうです。烏羽さんはこれまでを振り返り「時代とともに人は減り、まつりの規模も小さくなった。それでも、桜の美しさは変わっていません。毎年たくさんの方が来てくれて、桜の下で弁当を広げ、楽しんでいきます。嬉しい限りです」と目を細めました。

「桜もきれいですが、フジの花も素敵。私が20歳の頃にはまだ小さな苗木でしたが、今では立派なフジ棚です」と美佐子さん。公園のリニューアルにも触れ「移設したフジが咲いて、再びフジ棚になるのはしばらく先ですが、新しい公園や成長していくフジを見るのが楽しみです」とこぼす。

本市は「美しい街づくり」の一環で、オンリーワンの公園整備に取り組んでいます。丸山公園は、「四季折々の花が楽しめる魅力ある公園」を目指し、昨年7月に整備工事に着手。4年間で公園全体をリニューアルする計画です。本年3月末には第1工区の工事が完了。遊具や園路広場などが新しくなった公園で、平成最後の「花まつり」が催されます（3月25日～4月8日）。

昔から変わらない美しい桜と、新しく生まれ変わった公園。その両方を楽しみ、新しい魅力を再発見できる春が、もうそこまで来ています。

大浦池



▲賞状を手に笑顔の山口代表(左)と二場市長(右)



桜で地域に彩りを

龍神の怒りを鎮めるために池に身を沈め、干ばつから村を救った村娘「お浦」の伝説が残る「大浦池」。現在は、約150本のソメイヨシノを楽しむことができる風光明媚なスポットです。この桜は、地域の清掃活動などに取り組む「大浦ヶ池をきれいにする会」が約10年前から植樹を始め、守り育ててきた地域の宝。代表の山口一人さんは「地域のみなさんに喜んでほしい」との思いで、会員で力を合わせて試行錯誤してきました。今では毎年花を咲かせてくれます。ぜひたくさんの人を楽しんでほしい」と思いを語りました。

同会は、子どもたちの郷土愛を育む活動にも尽力。毎年、大浦小学校の5年生と池周辺の清掃活動を行っています【写真は昨年10月】。こうした地域活動が評価され、昨年11月に明治神宮で開催された平成30年度秋季善行表彰式（一般社団法人日本善行会主催）で「善行賞」を受賞しました。

桜がきれいなまち。自分たちの手できれいにしてきたまち。子どもたちの心に刻まれた記憶は、ふるさとの魅力を守り受け継ぐ原動力になります。毎年桜が美しく咲き誇り、訪れる人を魅了する風景は、地域のみなさんが世代を越えて育んできた「郷土愛」そのものではないでしょうか。

▼丸山公園整備イメージ



▶「時代も公園も新しくなり、さらに賑やかな公園になってほしい」と話す烏羽区長

